

1. 登米市における都市交通課題

1. 登米市の現況

登米市の都市交通をとりまく現在の状況を以下に整理します。

1-1 広域的位置

- 本市は宮城県の北東部に位置し、北部は岩手県、西部は栗原市及び大崎市、南部は石巻市及び遠田郡、東部は気仙沼市及び本吉郡に接している。
- 本市中心市街地から仙台市まで約 70km、大崎市まで約 25km、石巻市まで約 30km、一関市まで約 30km の位置にある。

1-2 広域的交通ネットワーク

(1) 道路

- 三陸縦貫自動車道により宮城県沿岸部及び岩手県沿岸部に連絡している。
- みやぎ県北高速幹線道路（整備中）により宮城県内陸部（栗原市）と連絡している。

(2) 鉄道

- JR東北本線及びJR気仙沼線が運行しており仙台などへの移手段として利用されている。
- 東北新幹線により、広域公共交通手段が確保されている。最寄りの東北新幹線駅はくりこま高原駅（栗原市）であり、平日上り方面 19 本、下り方面 18 本が運行されている。
- 新幹線駅の端末交通手段は主として自家用車となっている。

(3) 高速バス

- 高速バスにより仙台市との公共交通手段が確保されている。
- 仙台駅前－登米市役所前線は一日 32 便、県庁市役所前（仙台）－とよま総合支所線は一日 14 便が運行されている。

1-3 交通流動

(1) 通勤・通学流動

- 市内での就業・通学が多い。
- 就業者の流出先では、栗原市が最も多く、ついで石巻市、大崎市となっている。
- 通学者の流出先では、仙台市が最も多く、ついで栗原市、石巻市となっている。

(2) 買物流動

- 最寄品^{※1}の買い物は、主に登米市内で行われている。
- 買回品^{※2}などの商業活動は、主に迫地域、石巻市で行われている。

最寄品^{※1}：主に食品や普通生活雑貨など。 買回品^{※2}：耐久消費財として家具や家電、嗜好品など。

1-4 社会的条件

(1) 自動車保有台数

- 自動車保有台数は過去10年間微増傾向にある。
- 乗用車は減少傾向、軽自動車は増加傾向にある。

(2) 事故発生件数等

- 交通事故発生件数、交通死傷者数はともに近年減少傾向にある。
- 一方で、高齢者の死傷者数は増加傾向にある。

(3) 市内交通体系

1) 管理者別道路網（幹線道路）

- 国道、主要地方道、一般県道などによって、市域の骨格となる道路網が形成されている。
- 迫地域、登米地域の中心地などに幹線道路の集中がみられる。
- 国道45号、342号、346号、398号、456号の5路線が通っている。
- 鉄道は、JR東北本線とJR気仙沼線が通っている。
- 東日本大震災の影響により、JR気仙沼線の柳津駅から気仙沼駅間はBRTにより運行している。



図 幹線道路網

2) 自動車交通量

- 平成 22 年(2010 年)度道路交通センサスにおける平日の 12 時間交通量をみると、中田地域の国道 346 号で 12,515 台/12h、迫地域の国道 398 号で 10,451 台/12h と 1 万台以上の交通量となっており、市の中心部での交通量が多くなっている。

3) 道路整備計画における機能別道路網

- 2 路線（三陸縦貫自動車道、みやぎ県北高速幹線道路）の広域幹線道路により内陸、沿岸の広域都市圏連絡機能が確保されている。
- 市内地域間は放射状の幹線・補助幹線道路により、地域中心と中心市街地を連絡している。
- 中心市街地への通過交通抑制に資する 2 路線の環状道路整備計画により、中心部及び地域間の自動車交通の円滑化が図られることとなる。

4) 市民バス等

- 市内各地域から中心部や各地域間への移動手段として、市民バスが現在 10 路線運行されている。
- 地域内は、スクールバスを活用した住民バス（豊里地域では患者輸送バス）が運行されている。
- 東和町米川地区においては、市民団体によりデマンド型乗合タクシーが運行されている。
- 日常生活圏はコンパクトな市街地形成が求められるとともに、高齢者などの交通弱者の日常的な交通手段として、市民バス等の利便性向上が求められている。

5) 地域医療・救急体制

- 救急医療体制として、登米市民病院救急外来棟を増築し、救急患者の受入れ環境等の充実を図ったほか、消防署及び全出張所への高規格救急自動車の配備や救急救命士の養成を行い、救急要請時の迅速かつ効率的な現場対応が可能となっている。
- 少子高齢化や医療の高度化・専門化、保健・医療・福祉に対する市民のニーズが多様化する中で、市民一人ひとりが地域で安心して生活できるようにするため、より質の高い医療及び救急体制の整備・充実が求められている。
- 石巻赤十字病院や大崎市民病院などの高次医療機関との連携を強化し、役割分担を明確にしながら救急医療体制の充実を図ることが求められている。

6) 防災・安全

- 近年の自然災害は、特徴として予測困難で短時間のうちに甚大な被害が発生するものが多いこともあり、市民の防災に関する関心が一層高まっている。今後も行政・消防団・自主防災組織等の関係機関が一体となって、市民とともに災害に強いまちづくりを進めていく必要がある。
- 登米市地域防災計画では災害の予防対策として、道路施設は「耐震化の強化」、「避難路・避難階段の整備」、「信頼性の高い道路網の形成」、「道路管理者間の情報共有化」を掲げている。また、緊急輸送体制の整備（緊急輸送道路の確保）として「緊急輸送道路ネットワーク計画の策定」、「緊急輸送道路の整備・計画」、「その他関係機関との連携」を掲げている。

2.交通課題

登米市における現在の交通体系、交通流動、社会的条件から交通課題を以下に整理します。

表 登米市を取りまく現況と交通課題

項目		現 状	交 通 課 題
交通体系	(1) 高規格 幹線道路	○三陸縦貫自動車道：石巻圏域にアクセスする本市南側区間及び、気仙沼圏域にアクセスする本市北側区間ともに整備済となっている。 ○みやぎ県北高速幹線道路：栗原圏域間アクセス区間は整備中である。	■広域速達性の向上に資する高規格道路、みやぎ県北高速幹線道路の整備促進に向けた、一層の働きかけが必要です。
	(2) 幹線道路	○国・県道などの幹線道路は概ね整備されている。 ○地域間を結ぶ道路が少なく、市街地周辺部や橋周辺で交通渋滞を引き起こしている。 ○市街地を迂回する道路が少なく、大型トラックが地域の中心部を通過して危険である。 ○道路の舗装や橋梁のインフラなどは、今後一斉に更新時期を迎えることとなる。	■高規格道路等へのアクセスや市内各地域間を結ぶ幹線道路網を確立する必要があります。 ■都市計画決定されている道路について、既存の整備計画との整合性を図りながら、必要に応じて整備、見直しを検討する必要があります。 ■道路や橋梁などの長寿命化対策を推進する必要があります。
	(3) 鉄道	○東北新幹線により、広域的な公共交通は確保されている。 ○新幹線駅の端末交通は、主として自家用車となっている。	■公共交通利用促進のため、適切な交通需要マネジメントが望まれます。 ■鉄道駅においては、接続するバス利用の促進が必要です。
	(4) 高速バス	○高速バスにより、仙台市との公共交通が確保されている。	■高速バス利用の促進と、他公共交通との乗継利便の向上が必要です。
交通流動	(1) 通勤通学	○登米市居住者の就業・通学先は、市内が多い状況である。 ○就業者の流出先では栗原市が多い状況である。	■市民バスの利便性の向上が必要です。 ■自動車通勤に対応した、道路ネットワークの維持・充実が必要です。
	(2) 買物	○最寄品の買物は、主に登米市内で行われている。 ○買回品などの商業活動は、主に迫地域、石巻市で行われている。	■市内の日常生活流動に伴う、公共交通の利便性向上が必要です。

項目		現状	交通課題
社会的 条件	(1) 自動車 保有台数	○自動車保有台数は過去10年間、微増傾向にある。	■高齢者事故の増加を考慮し、高齢者が免許を返納しやすい公共交通サービス環境の整備が望まれます。
	(2) 事故発生 件数等	○交通事故発生件数、交通死傷者数はともに近年減少傾向にある。 ○高齢者の死傷者数は増加傾向にある。	
	(3) 市内 交通体系	○市内地域間は放射状の幹線・補助幹線道路により、地域中心と中心市街地を連絡している。	■環状型道路ネットワークの整備により、中心部での通過交通の抑制及び、地域間の自動車交通の円滑化を図る必要があります。
	(4) 市民バス 等	○日常生活圏はコンパクトな市街地形が求められている。 ○市内各所への効率的な移動、高齢者の日常的な交通手段として市民バス等の利便性向上、利用促進が求められている。	■コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて、市民バスと他の公共交通サービスの効果的な組合せによる利便性の高い公共交通ネットワークの構築が望まれます。 ■学校（高校）再編による通学先の広域化に対応した市民バスの運行をする必要があります。
	(5) 地域医療 ・救急体制	○少子高齢化や医療の高度化・専門化等に対する市民のニーズが多様化している。 ○市民一人ひとりが地域で安心して生活できるようにするため、より質の高い医療及び救急体制の整備・充実が求められている。	■交通弱者が市内の病院へ通院しやすい公共交通網の整備が必要です。 ■高規格道路を活用した石巻赤十字病院や大崎市民病院などの高次医療機関との連携を強化する必要があります。
	(6) 防災 ・安全	○頻出する自然災害に対し、強いまちづくりの確立、社会インフラの確保が十分とは言えない状況にある。 ○近年の自然災害の発生により、防災に対する意識は高まりつつあるが、防災対策の実践力向上が求められている。	■災害時の予防対策として、道路の耐震化の強化、避難路・避難階段の整備、信頼性の高い道路網の形成が必要です。 ■緊急輸送道路の確保、緊急輸送道路ネットワーク計画の策定等を行っていく必要があります。